

第4回水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 議事概要

1. 日時：平成26年2月27日（木）13:00～15:00

2. 場所：マーチエキュート神田万世橋 N-5 区画

3. 出席者：別紙

4. 議事の内容

(1) ゲストスピーチ

- ・(株) JR 東日本ステーションリテイリング 代表取締役社長三井剛氏よりゲストスピーチを行った。

(2) 水辺とまちの未来創造メッセージ（骨子案）の説明

- ・事務局よりメッセージ集の「作成の考え方」、「イメージ案」について説明を行った。

(3) 意見交換

- ：・再度、水辺への思いなどをお話し下さい。
- ：・水辺を水辺だけで考えるのではなく、都市全体における水辺を考える視点も重要。ヨーロッパでは、水辺があることが街の宝物になっている。
 - ・使い方にも様々なクリエイティブなアイデアがある。ベルリンやコペンハーゲンでは、川そのものではないが、川の中にあるプールで泳ぐことができる。
 - ・水辺は視界が広がる（引きがとれる）場所である。シドニーやボルドー等は、そういう場所を上手に見せており、他にも多くの街がそうである。こういうことを日本でも意識しながら、水辺を活かして都市全体を印象づけるような都市づくりをすることも必要。
 - ・どこから何が見えるかの議論はあっても、その場所（視点場）の空間の質について議論することが少ない。
 - ・地域ごとに「水辺を使うリテラシー」というものがあるように思う。
- ：・そもそも密集している都市の中では、水辺は広がりがある貴重な空間である。
- ：・メッセージ集については、水辺のことを楽しく伝えるという意味では良い。
 - ・そもそも水辺は、周りを含めて水辺である。
 - ・誰も水の流れ（河川）を都市の施設とっていない。河川側でも河川整備計画に都市計画マスタープランの図も出ていないなど、連携が足りない。
 - ・「川沿いにこそ公園があるべき」であり、川が都市施設としてどうあるべきか考えるべき。
 - ・国鉄からJRに変わり、不動産経営ができるというメリットから民衆に受け入れられ、駅ビルも建つようになった。
 - ・河川も水質が良くなり水辺も注目されるべき時代になってきた。
 - ・河川を公園区域にすると規制が河川区域よりも厳しいため、広場に位置づけてみんなで使

い方を議論し、そこで稼いだお金を維持費に使うということがあっても良い。

- ：・震災復興の頃は、水辺においてもマスタープランがしっかりとあった。
 - ・民間ビルも川に向かっていた。
 - ・以前、東京の景観軸として川沿いを位置づけたが、有名無実化してしまった。
- ：・川は、人間の頭の中で場所をイメージする（区切って理解する）のにちょうど良いところ。
 - ・アンコールワットでは、朝日や夕陽を多くの観光客が見に来る。何もないところだが、豊潤な時間を過ごしている。こういうことが大切である。
 - ・人の生活を見ることができる設計になると良い。
 - ・例えば、「隅田川でこんなことさせてよリスト」があると良い。また、その達成しやすさランキングなどもあると良い。
 - ・水辺で何かやろうとする際には、「水辺 110 番（コンシェルジュサービス）」があると良い。
 - ・この懇談会で出た内容を実際にやろうとすると、役所から相当な抵抗がある。それを突破するためには、「前例集」があると良い。
- ：・日本人は特に夕陽とか時間の変化、季節の変化が大好き。
 - ・実はお台場公園は夕陽がきれい。神田川でも柳橋から見る夕陽はすばらしい。
 - ・時間とパフォーマンスを組み合わせるとというのが日本ではいいと思う。ビルとかハードだけが魅力だというと、ヨーロッパに負けちゃう。
- ：・水面の“ゆらぐ”ということは、人間として魅力を感じる部分である。
 - ・都会の水面にはネオンの明かりが映り、良い雰囲気醸し出す。
 - ・今の日本人は、川がそこに流れていても気づいていない。
 - ・川は行き止まり感がある。それを打破するのは舟運である。そこから次のところへ行くことができる、広がりが出てくる。舟運の視点は重要だ。東京でも国土交通省が舟運業者を集めてシンポジウム等をやっている。国交省内で局が違うからといことではなく、この会議とも連携してやってもらいたい。鉄道も観光地と結ばれて価値が上がった。水辺も舟運と結ぶべき。
- ：・スローフードからスローシティ運動というのが世界では広がっていて、（韓国まで来ていて日本にはまだ来ていないが）、都市の中には、時間が2種類あって良い。「急いで、早い、秒を争う」ということともう一つ別の、ゆったりとしたリズム、時間が流れるということ。それが水辺だと思う。水辺にたたずむとゆらいでいる、ゆっくりするということがあり、そこに公共性がある。しかも夜がいい。夜も時間がゆっくりと流れている。
- ：・この懇談会を通じて、河川の可能性を一層感じた。
 - ・隅田川では、水質が改善されたことに加え、水辺を歩ける様になったことが大きい。
 - ・公共空間の使い方については、特定の人達だけが使うと私的利用になってしまう。今、カフェをやっているところは、空間的に余裕があるところである。
 - ・地域の人達と話し合いながら、一緒にできる様になると良い。
- ：・10年くらい前に、神田川を魅力的にしようという計画を考えたが、建替えやアクセスの問題が出た。それらは、区が窓口だと思うが、それぞれの区がバラバラにやるのではなく、一緒に議論して進めるべきと考えている。

- ：・マスタープランは大切だが、今までは行政のみで決めてきたため、平等性等が重要だったと思うが、事業として採算性があるところは、民間に任せるとすることも取り入れてもらいたい。
- ・ここマーチエキュート神田万世橋では、町会の人達とお付き合いをしているが、神田川に対する思いが強い。「どんなお店が入ってもかまわないが、川とのつながりだけではなくさないで欲しい」と言われた。
- ：・東京のターミナルは、皆河岸に近いところに造られた。
- ・しっかりとしたマスタープランがあると街は変わる。
- ：・知り合いが、高田馬場の神田川沿いに店を出したため先日訪問した。ここを選んだ理由を尋ねると、「神田川の景色が眺められるから」ということであり、そういうことに価値感を持つ人が増えている様に感じる。
- ・土地を買収して事業を行うばかりではなく、水辺や道路に面している民地に対して植樹等への費用を負担する「借景補助金（助成金）」みたいな制度があると、水辺や街並みがきれいになるのでは。
- ・鴨川では護岸にカップルが等間隔で座る傾向があるとのことなので、あらかじめベンチを据えておいて、夜になると明かりが点灯し、座ると消えるという様な仕掛けにしておけば、雰囲気の良い空間ができるのでは。
- ・目黒川は桜が咲いている時期だけではなく、花びらが散って、川面をゆっくり流れるというのも絵になる。「水面（みなも）祭り」的なことをやっても良いのでは。
- ：・そういう様に、水辺に光が当たると良いですね。
- ・中目黒辺りは、最近特に良くなり、注目もされていますね。
- ：・点と点がつながるということを、みんなで行う必要がある。
- ・水辺には、近景、遠景、さらなる遠景がある。近景部分はデザイナーが、遠景は建築サイドで、さらなる遠景はまちづくりとして取り組むことが大切。
- ：・クオリティやデザインリテラシーなどのことは重要。
- ・水辺においては、議論をしっかりやる必要がある。
- ・大阪は非常に上手にやっている。
- ：・市民と行政が対等の関係でやれることが大事。
- ・メッセージ集 p9 の写真は、解説文がないと何のためにやったのかの意図が伝わらない。
- ・p8 の北浜テラスにしても、相当な苦労があって今に至っている。プロセスがわかる様にする必要はある。
- ・参考資料 p16 の会議風景の写真が悪すぎる。この会議は、議論方式などは、意見をどんどん取り入れてやってきた。この感覚が大事であり、その意味でも写真は差し替えてもらいたい。
- ・最後の p18 のところには、中間組織（コーディネーター）が大事だということを強調して書いてもらいたい。
- ：・写真の解説は、各コメンテーターが書いた方が良いのでは。
- ：・資料編が前段部分とトーンが違いすぎる。

- ・写真の解説は、コメンテーターの方にも協力頂いて。
- 〇〇：・全部が全部合意というのは現実的には無理。
- ・規制緩和もあるが、新たに規制していくこともある。この2つを使い分けるレギュレーションが大切。
- ・マスタープランが大切。流域で考える必要がある。
- ・都市内にこれだけびっしり建物が建っているため、リノベーションしか方法がない。しかし、それも全てのところではできないため、点ということになる。それを単なる点ではなく、重点として取り組む必要がある。
- ・コーディネーターの役割は重要。
- ・お金が流れる仕組みを作らないとダメ。
- 〇〇：・ニューヨークは水辺こそが価値を生む出す場であるという認識がある。
- ・日本でも、かつては橋のたもとは、地価が高かった。
- 〇〇：・この会場が面している神田川にゴミ船しか通らないのは悲しい。
- ・この懇談会に参加できたことで、自分達の活動の原点を振り返る良い機会になった。
- ・まだまだユニークな人（変人）は、たくさんいる。こういう人にスポットライトを当てて欲しい。こういう人達の活躍が国際競争力に直結している。
- 〇〇：・ユニークな人達にとって、大阪は居心地が良さそうですね。
- ・東京には、お金を使わずに時間を過ごせる場所がない。本来は水辺にあった。そこはリラックスできる場であり、リフレッシュできる場であった。それを取り戻し、観光にもつなげたい。
- 〇〇：・水辺に「作業スペース」、「展示スペース」、「交流するためのバー」、「船着場」の4つがあれば、世界中からユニークな人が集まって来る。
- 〇〇：・先程「点」という話しをしたが、それは「人（個人）」のことである。人と人をつなげることが大事。
- ・メッセージ集のp23に東京オリンピックのことが載っている。最初のチャンスだとは思いますが、これを見ると、この懇談会の結論が東京オリンピックに焦点を当てたものだと誤解されてしまう。
- 〇〇：・メッセージの構成だが、各コメンテーターの発言を整理すると、この様になるのだと思うが、もったいない気がする。でもまとめ方は難しい。
- 〇〇：・時間の概念が入っていない。朝夕とか水辺の魅力的な時間帯があるはずだ。
- 〇〇：・夕暮れ文化がなくなってしまった。
- 〇〇：・今年の6～8月に、大阪では水辺の夕暮れを活用した社会実験「水辺の夕涼み」を予定している。
- 〇〇：・議論はこの辺で終わりにします。
- ・メッセージ集には今日のご意見を反映し、レベルアップしてもらいたい。その内容は、メール等で伝えてもらいたい。
- 〇〇：・東京オリンピックについては、通過点というか、きっかけにしたいと考えている。記述を見直したい。

- ・3月22日に「ミズベリング」のシンポジウム的なものを考えている。ご協力をお願いします。

- ・今年度は、今日が最後ですが、来年度以降もつながりを持たせて頂きたい。よろしくお願いします。

〇〇：・各コメンテーターからの投稿は、3月7日（金）までをお願いします。

〇〇：・今回の懇談会を通じ、少し見えてきたと考えている。

- ・ご意見を冊子にまとめることは必要と考えているので、ご協力をお願いします。

- ・行政は、社会が変われば変わっていく必要があると考えている。今後ともどうぞよろしくお願いします。

以上

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」
 コメンテーターリスト

(敬称略・50音順)

	氏名	所属	出欠
コメンテーター	井出 玄一	一般社団法人ポート・ピープル・アソシエーション代表理事	○
コメンテーター	伊藤 香織	東京理科大学工学部建築学科准教授	○
コメンテーター	金井 司	三井住友信託銀行株式会社理事・CSR 担当部長	○
コメンテーター	岸井 隆幸	日本大学工学部土木工学科教授	○
コメンテーター	忽那 裕樹	株式会社 E-design 代表取締役	○
コメンテーター	久米 信行	久米繊維工業株式会社取締役会長	○
コメンテーター	紫牟田伸子	紫牟田伸子事務所代表	○
コメンテーター (座長)	陣内 秀信	法政大学デザイン工学部建築学科教授	○
コメンテーター	田中 義宏	大阪府都市整備部技監	×
コメンテーター	辻田 昌弘	三井不動産株式会社 S & E 総合研究所長	○
コメンテーター	遠山 正道	株式会社スマイルズ代表取締役社長	○
コメンテーター	中島 高志	東京都建設局河川部長	○
アドバイザー	渥美 雅裕	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課課長	○
アドバイザー	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官	○